

京都検定講演会講師による公開テーマに関連する‘よもやま話’。しっかり学習を深め、京都検定合格を目指しましょう。

## 第19回 京都検定 2級公開テーマ「京の通称寺」 「寺已紹介、寺の名は〇〇、またの名を〇〇と申す！」

[講師]  
塩原 直美  
京都観光  
おもてなし大使



正式名より親しみのある愛称で呼ばれ、信仰と共に歴史を重ねてきた「通称寺」。京都には宗派を超えた「通称寺の会」もある。歴史上の人物や祀られている仏様、花や祭、建造物や寺宝にまつわる逸話、伝説、ご利益などから、その「通称」は誕生している。沢山ある通称寺から今回は「絵師」で一巡りしてみよう。

まずは千本寺之内の「浄光寺」。当寺には江戸時代の“旅の絵師”池大雅の墓があり、通称「大雅寺」と言う。幼少期は西陣に母と暮らしていたようだ。この大雅の墓石が実にカッコいい。大雅と共に富士山にも登った友人らの題と書で「故東山画隠大雅池君墓」と刻まれている。大雅は師友、弟子、妻に非常に恵まれていた。それが、この墓からも感じられる。ちなみに妻は時代祭に登場する絵師「玉瀾」である。

次は日本の水墨画の師・雪舟ゆかりの東福寺「芬陀院」。当寺には鶴亀の島を配した「雪舟の庭」があり、芬陀院は「雪舟寺」が通称となっている。この庭の亀石が夜な夜な動き回るので、雪舟が亀石の上にもう一つ石を置くと動かなくなったというエピソードも伝わる。

私の好きな俵屋宗達。俵屋という名の扇屋の主として名の知られた彼が一人の絵師として評価を高め

ることとなった作品がズラリと残る「養源院」の通称は「宗達寺」。杉戸絵の霊獣らは躍動感があって、今にも飛び出してきそうだ。“元祖ゆるきゃら”とも言われるが、供養の思いが込められている。

今回は通称寺を「絵師」に絞ってみた。このように「通称寺」を自分が覚えやすいグループ分けをして、楽しさを添えると得点に繋がる。「絵師」以外でも、様々な分け方が出来そう。ぜひ、まとめてみてはいかがだろうか。



浄光寺・池大雅の墓




養源院「白象図」

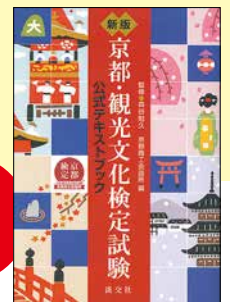
新版 受験者必携! 京都商工会議所/編 累計約22万部!

### 京都・観光文化検定試験 公式テキストブック

A5判 392頁(カラー60頁) 定価 2,420円(本体2,200円)

お申し込み・お問い合わせ  淡交社 〒603-8588 京都市北区堀川通鞍馬口上ル TEL075(432)5156  
〒162-0061 東京都新宿区市谷柳町39-1 TEL03(5269)7941

好評  
発売中



※京都検定では『公開テーマ』に関する問題が各級10問出題されます。

第19回(12月12日施行) 3級「京を見守る銅像となった歴史人物」 2級「京の通称寺」 1級「京の名木」

※「京都・観光文化検定試験」「京都検定」及びそのロゴマークは京都商工会議所の商標です。無断で使用することはできません。